

SDGsから 地域課題学んで

宮津天橋高で授業

宮津市の宮津天橋高宮津学舎で15日、持続可能な開発目標(SDGs)の視点で地域課題を学ぶ授業が始まった。生徒が気候変動やジェンダーといった幅広い話題の講演に耳を傾け、ワークショップに取り組んだ。

地域課題を見つけ、解決できる生徒を育てようと、1年生116人を対象に、同高が今年から始めた。講演では、総合地球環境学研究所の三村豊さん(建築史・都市史)が「SDGsの達成には、環境と経済、社会を調和させること



SDGsに関する三村さん(右奥)の講演に耳を傾ける生徒たち—宮津市滝馬・宮津天橋高宮津学舎

が重要」などと指摘した。その後、生徒たちは「砂浜消失」「人口減少」など丹後に関わるキーワードで未来社会を想像した即席の物語

を制作。「天橋立の砂がなくなるかも」などと意見を交わした。1年中川優さん(15)は「宮津で魚を捕り過ぎないようにする漁師さんに目を向けてみたい」と話した。授業では2学期以降、実際に地域で課題を探して分析し、解決策を提案する。(平野巧)

京都新聞社の許可を得て掲載しています